



(防府)

## 山口・下右田遺跡

しもみぎた

調査地の遺構検出面は北から南へ緩やかに傾斜しており、遺構は調査区北部に集中する。調査区北部で検出された遺構は掘立柱建物一一棟、地鎮祭祀に関連すると考えられる土坑一基、井戸二基などで、すべて中世の遺構である。標高の低い調査区南部では、弥生時代の低湿地が検出された。

1 所在地 山口県防府市大字高井字喜四郎

2 調査期間 第二四次調査 一〇〇七年(平19)三月～六月

3 発掘機関 防府市教育委員会・周防国府跡調査会

4 調査担当者 佐々木達也

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

下右田遺跡は、弥生時代から中世にかけての集落遺跡で、佐波川と右田ヶ岳・西目山に挟まれた平坦地に立地し、現在も農業水路や生活道路に条里の痕跡を残す。遺跡北東部では弥生時代から古代にかけての遺構も確認されるが、今回の調査地は遺跡西部にあたり、中世の遺構が主体となる。

今次調査は防府市立右田中学校の屋内運動場新築工事に伴い実施した。

木簡は、井戸から一点出土した。井戸は井戸枠の大半を抜き取つており、底部付近にわずかに方形縦板組の井戸枠の痕跡を残す。遺構検出面からの深さは約一・八mを測る。木簡は、井戸底部より文字記載面が下になつた状態で出土した。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 急々如律令

□□□□□□

(243)×36×4 081

上下両端ともに欠損しており、原形は不明である。文字は確認できた限りで片面のみの記載であるが、劣化が著しく、現在は判読できない。

(佐々木達也)